



サイエンスとアートの力で 患者さんを幸せにしたい方に

評者 | 山中克郎 福島県立医大会津医療センター教授・総合内科学

最近注目されている能力の1に「ソフトスキル」がある。常識として必要であることがわかっているが、点数化することが難しいスキルのことである。コミュニケーション力やチームワーク、失敗から立ち直る力、批判的な思考、ユーモアのセンスが含まれる。経済が目まぐるしく変化する現代において、よい仕事をするためには必須のスキルと言われている。医療従事者にも必要なこれらのスキルを、どう磨けばよいのか？ それを本書から学ぶことができる。長く豊富な臨床経験があり、^{しんし}真摯に患者さん1人ひとりと向き合ってきた岡田定先生にしか書けない、患者さんと紡いだ心温まる物語集だ。

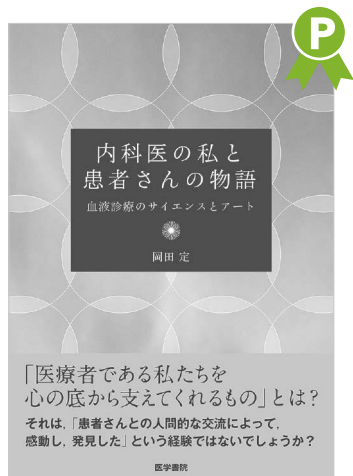
本書のサブタイトルは「血液診療のサイエンスとアート」である。世界中の多くの医師に敬愛されている、カナダ生まれの内科医ウィリアム・オスラー(1849-1919)は、「医療はサイエンスに基づいたアートである」という言葉を残した。医学は真理を追求する「科学(サイエンス)」であるが、それだけでは不十分なのだ。発熱した子どもを優しく見守る母親のような「慈しみ(アート)」が必要である。

科学的治療に勝るもの

岡田先生とスタッフのアートを感じる逸話は涙を誘う。白血病ターミナルステージで入院治療中の65歳女性に「娘の花嫁姿を見たい」という強い希望があったので、聖路加国際病院のチャペルで模擬結婚式を行ったそう。病棟を出発する前には身体を揺さぶると開眼する程度の意識レベルだったが、チャペルに到着し娘さんの花嫁姿を見て笑顔になった。医療スタッフに見守られながらチャペルでご家族と写真撮影を行い、「ありがとう」「幸せです」「よい人生でした」との笑顔で感謝されたという。このような機転を利かせた優しい振る舞いは、どのような治療にも勝るのである。

病気を乗り越える力を発揮し奇跡的な回復を見せる人には、3つの共通点があるという。「病気も意味があると前向きに考える」「自分の運命を引き受けて、生きる意欲にあふれている」「人のために尽くしたいという強い願望をもって」。すべての人に感謝し、他人を思いやり、困難に直面しても希望をもって前向きに生きていきたい。サイエンスとアートの力で患者を幸せにしたいと願うすべての医療従事者に本書の購読を勧めたい。

G



内科医の私と 患者さんの物語 血液診療のサイエンスとアート 岡田 定=著

定価：2,750 円
A5 判・168 頁／医学書院／2021
[ISBN978-4-260-04348-9]